

わつちめと云へること多し、

〔春秋左氏傳成十二〕傳九年略詩曰雖有絲麻無棄菅蒯雖有姬姜無棄蕉萃凡百君子莫不代匱言備之不可以已也

〔陰德太平記六十七〕光秀弑信長卿事

敵心易ク攻入爰ニ切立彼所ニ突倒シケレバ寺中ノ兵共逆モ叶ハジト思向敵ニ走リ懸々々組合刺違テ死スル者數ヲ不知信長公ハ白綾ノ單衣ヲ著放テ基結キマヒニテ鎗提ケ廊ノ方へ出世悴メガ世悴メガト宣ケルガ略下

〔三河物語三〕七郎右衛門たまくすりがなきぞと言ければたまくすり之なきとは何と云たる事ぞやはやく出させ給へと云ければ其時せがれめが何を云ことくこしがぬけはてて出んと云者一人もなきぞこしがぬけたると言へば諸人之よはみ成にたまくすりがなきと云物なるぞと云ければ平助も其儀ならばとてかはらへのり出して歸る

○按ズルニ右ハ大久保彦左衛門ノ兄七郎右衛門ガ弟ニ對シテセガレト云ヘリ〔黒田家譜孝高〕此日九月十五日も辰の刻より軍始り巳午に及べ共勝敗未だ分らざりしが動

すれば關東勢戰地を去らざりければ家康公の家臣久保島孫兵衛旗本に馳參り秀秋未だ裏切すべき旗色見え申さずと云ければ家康公是を聞給ひ秀秋裏切せざる時は秀元廣家も違變有べきかと彼是心を苦め給ふ家康公は弱冠の頃より味方危き時は指を嚙ませ給ふ癖有しが此時も頻りに指を嚙み給ひ悴めに計られて口惜くと云はれければ略下

嫡子
庶子

〔伊呂波字類抄知人倫〕嫡子チヤクシ長男曰嫡

〔膾餘雜錄四〕正長曰嫡其餘曰庶妾隸之子曰孽

〔倭訓栞前編四〕うひのこ 嫡子をいふといへり今も初産の子を男女通じてうひごといへり淡